

6) 石塚三郎旧蔵・新潟県歯科医師会日誌 —草創期の歯科界を探る [その5] —^{*1}

新潟・新発田市 佐藤 泰彦^{*2}

要旨：筆者は石塚三郎が新潟県歯科医師会の初代会長に選任されたその日から、自らの筆墨で、混乱した歯科界の内情を綴った会務日誌を解説した。

キーワード：石塚三郎、会務日誌

Abstract：Dr. Saburo Ishizuka started his diary on Niigataken Dental Association when he was elected as the first president of the association. It started the very first day he became president, and had described the circumstances of the creative days of the dentistry in Niigata.

Key words：Saburo Ishizuka, Diary of the Association

明治 45～45 (1911～1912) 年度日誌

(1) はじめに

明治 40 年、僅か 20 名の会員で発足した県歯科医師会も 5 年目を迎え会務も順調に推移し、愈々安定期が到来したように考えられる。日誌は石塚会長の手で明治 45 年 5 月 21 日まで記述して終わっているが、「新潟県歯科医政史」を参考にし、「5 月 25 日」に開催された「第 6 回新潟県歯科医師会総会」まで言及したい。

(2) 明治 44 年度の会務と総会

「明治 44 年 1 月以降」とやや太字の標題で、「1 月 5 日」から始まる。

石塚会長はこの日、年始を兼ねて県衛生部に赴き、川上警部に面会し、会務の打合わせをしている。

「1 月 15 日」三条町一之町 105 番戸、安田忠吾氏より開業届出あり、と記述されている。

因に会員名簿を見ると、岐阜県・平民・免許第 1183 号、明治 20 年 8 月 10 日生とあり、明治 45 年 7 月 16 日退会している事も併記されていた。

さらに「1 月 19 日」には薬価表其他規約報告書等を小包便に送る。8 銭支出。更に会費不足分 1 円と現籍地の届出を表面にて請求せり。「1 月 22 日」安田君より為替 1 円と届書訂正送付し来る。

「2 月 5 日」三條町・安田忠吾氏へ表札送付す。小包料 12 銭、表札代 45 銭とあり、会計簿と照合できた。

「3 月 15 日」日本聯合歯科医会から、4 月 8 日、東京市に於て開催可致に付、代表者出席せしむる件の依頼あり、本会の決議により、新潟市・竹内清平氏出席に決定した。

「日本歯科医師会史」によれば、4 月 8 日午後 5 時から、東京築地の精養軒でひらかれ、加盟団体の代表 15 名出席している。

^{*1} Studies on the Diary of the Niigata Dental Association Owned by Late Dr. Saburo Ishizuka—In Search of the Creative Stage of Local Dental Association (Part 5)—

^{*2} Yasuhiko SATO, Niigata-Shibata City

本稿要旨は、第 30 回日本歯科史学会・第 103 回日本医史会合同学会 (2002 年 9 月 28 日、29 日 於日本歯科大学新潟歯学部) で口演した。

このとき、新潟県歯科医師会は「貧困患者診療に関する件」を提案したが、宿題とすることとなった。

この年2月11日、明治天皇が「施薬救療に関する勅語」を出されたことに関連して提言したもので、世情は社会福祉についての関心が高まった時期であったことに対応したもので、これが議決されず宿題となり、石塚会長以下さぞ残念だったと思われる。

「5月4日」午後6時より、^マ医師会総会に付準備会を開く。此日会するもの、塚田二郎、山田利充、高野季八の3君にして、白井徳蔵、永井権吉の2君、事故の爲め欠席せられたり。

当日は施療券配付の方法、並に規則改正案等につき協議をなし、9時散会。と記している。

「5月5日」西蒲原郡吉田村、平岩定之助氏より、同地に開業の趣申来る、とあり、会員名簿を見ると、愛知県平民、西蒲原郡吉田村大字吉田1738番地(免許番号は記載なし)明治15年7月生とあり。調査の結果、東京歯科医学専門学校を明治42年12月卒業している。

免許登録番号は第1122号と判明した。

またこの日塚田幹事と事務所に会合し、会計の取調べをなし、深夜1時散会したと記述している。

「5月6日」5月4日総会の準備会に欠席した白井徳蔵氏より、「会則改正案に付、草案を豫に明示し研究の余地を与へられたし」との来状あり。

「5月7日」新潟県知事へ総会の届書を発せり。

「5月10日」^マ医師会開催に付、14日午後6時半より、高田町・紀伊国屋に役員会開催の趣、各役員に通知せり。左の諸氏へ出席勧誘状を発す。田中瀧三郎君、佐藤梅次郎君、真部節君、竹内清平君。

「5月11日」佐藤梅次郎、佐藤太三、真部節、田中瀧三郎、竹内清平、吉岡熊蔵、千葉一胤、松川第十郎の諸氏より欠席の届出であり。

猶、欠席の人、数名有之様に付、高田へ勧誘せらるべき旨、電話にて通知せり。

全日午後10時、高田・倉地幹事より出席員半数に達せざる見込みなりとて、会場、会日の変更を申来る。

此夕、塚田、高野の両役員を事務所へ招待し、高田より断り来りたる電話の始末について協議した結果、左の延期状を発意する事となし、明日新

潟へ交渉する事、にした。

拜啓、本会総会之議出席員少数之爲め成立無覚束候に付延期仕候。会場及び時日は追て御報告可申上候。……会長 印

……殿

此夕20枚余のはがきを認め1時過ぎ散会せり。

「5月12日」早朝、新潟・竹内氏へ電話にて、昨夜の始末を報告し相談せしに、延期に同意せられ、市内会員へ通告を引受けられる。

県知事へは小生の代理として延期届を提出せられたり。

佐渡郡河原田町、小長谷利助氏へ電報にて延期を通知せり。はがきにて通知せし会員は24名。

「5月13日、17日、18日、19日、24日、28日」と総会について役員と連絡をとり乍ら、「5月31日」に役員会を開催する事に決定。会場は長岡市・松葉館とし、各地役員に通告した。

「5月30日」高田、新潟より出席の旨申来り。

新発田は欠席の趣申来る。

「5月31日」正午、竹内、辻沢の両氏来訪せらる。午後6時、江川、倉地の両君来岡。

塚田、山田、高野の3氏、停車場へ出迎^マへせらる。

午後6時30分、松葉館に於て役員会を開く。

会する者左の如し。竹内清平、辻沢俊隆、塚田二郎、高野季八、石塚三郎の5氏。他に山田利充氏は総会の準備員として臨席せらる。

決議せし要項は左の如し。

第7條 第2項 評議員会トアルヲ役員会ト改ム。 第3項 評議員3名以上トアルヲ役員3名以上ト改ム。

第11條ノ次ニ左ノ1項ヲ加フ。本会ニ臨時書記ヲ置ク、書記ニハ手当ヲ給ス。

第13條ノ次ニ左ノ1項ヲ加フ。

^マ本会の経費ニ不足ヲ生ジタル時ハ総会ノ議決ヲ以て会費ヲ増徴ス。

第12條ノ次ニ左ノ1項ヲ加フ。

^マ本会ノ経費ハ会費、過怠金、寄付金、其ノ他ノ収入ヲ以テ支弁ス。

第19條ノ但書ヲ左ノ通り改正ス。

但シ過怠金徴収ニ関スル法律上ノ権限ヲ会長ニ委任スルコトヲ得。以上

其他、貧困患者施療の件に付、市町村長、警察署等の手を煩し施療券を配布することに付協議せ

り。午後8時、議事終了せり、と。

総会は、第1回以外は、5月中に開催されているが、この年第5回目は開催地を高田町としたが出席者が少数であれば、議事の成立が覚束ないと判断、延期し、役員会を開き、「6月11日」長岡町・商業会議所と決った。

日誌によれば、「6月2日」歯科医師会総会通知書印刷方を北越新報社に依頼す。

「6月4日」北越新報社より案内状出来持参に付、塚田幹事と発送事務を採る。

此夜、事務を結了せしは午前1時30分なりき。発送部数、29部 78銭、新潟県へ届書 3銭、封皮代 5銭

「6月6日」新潟・竹内副会長へ県官の出張方を依頼せり。(電話1通話)

「6月7日」竹内君より電話にて、川上警部の臨席ある趣申来る。

高田・江川、倉地両氏へ発信せり。

「6月8日」会務上に付、塚田幹事来訪。12時散会。

「6月9日」新潟・竹内副会長より電話にて、衛生課長・小沼氏、川上警部の両氏臨場之趣申来る。

「6月10日」午前9時、新潟・竹内氏より電話にて、浅野、長谷川、辻沢の諸氏欠席の趣申来るに付、如何可致との相談あり。

依て再度の勧誘方を依頼せり。

高田・江川氏へ電話にて、出席員少数にて困入候へば、是非出席さる旨送る。

母堂危篤の趣にて、出席覚束なしとの事。

柏崎・杉本氏へ電話にて、明日の総会へ出席せられるや否や照会せり。

新潟・竹内氏より電話にて、辻沢君出席覚束なきに付、小生より特に勧誘すべき旨申来る。

見附・田中君へ電話にて出席を照会せり。

柏崎町・吉岡君、電話にて出席を促す。

柏崎・江川氏へ会員出席の略数を報告し、出席を促す。(註・江川氏は高田市在住)

山本允義君より出席の申出あり。

小出・井口君より電話にて出席申出あり。

塚田君午後6時の汽車にて三條へ赴き、平岩、安田の出席を促しに参らる。午後10時半帰岡。何れも出席の予定なりしと。

新潟・辻沢君へ竹内君の請求に基き、電話にて出席を促す。5通話をなせるも遂に要領を得ず。

竹内君へ電話にて右の趣申送る。

倉地氏より柏崎会員を訪問し、杉本氏の出席を促すべき趣の電話あり。

「6月11日」午前7時、竹内君より電話にて新潟・長谷川君の出席を快諾せられたる通知あり。

延期してようやく決った第5回県歯科医師会総会について、石塚会長は直接及び間接に各会員に出席勧誘したので会員31名中26名の出席を得る事ができた。

欠席会員は新潟・辻沢俊隆、高田・江川鈴弥、新発田・佐藤梅次郎、佐藤太三、真部節の5名である。

この頃は羽越線は未開通で、新発田から新潟迄の交通手段は、徒歩、人力車、馬車、或は新発田川を蒸気船で下り、途中乗り換えて阿賀野川を下り新潟港迄のコースであったという。従って長岡迄の往復は最低3泊4日となり、総会後の議事録或は会報をあてにし、マンネリ化も加わり、出席率が悪くなったものと考えられる。

石塚会長は、総会について日誌に何も記述していないので「新潟県歯科医政史」から引用した。

第5回総会

明治44年6月11日午後2時長岡商業会議所に於て開催。

役員決定

会長	石塚三郎	
副会長	竹内清平	
幹事	塚田二郎	清水弥五郎
評議員	倉地実雄	高野季八
	佐藤梅次郎	八百枝康三
	長谷川朋一	

議事

- 1) 会則中追加並に改正案(可決)
- 2) 施療券配布案(警察署を通して貧困者に配布)(可決)
- 3) 会則変更の個條選定並に認可申請する手續を会長に委任する件(可決)

講演

- 1) 圧迫鑄造器に就て。中野春造
- 2) 歯髓無痛即時抽出術に就て。石塚三郎

(3) 総会終了後の会務

「6月12日」夜、塚田幹事来訪。各地へ礼状を發せり。封書5通、はがき10枚。

「6月13日」総会経費其他懇親会の不足額に付会合し、了て慰労会を千歳楼に開く。

宴会費各自負担せり。

一、金 13 円 若満都宴会不足

一、金 3 円 大野屋旅館雑費補助

合計金 16 円。

此の負担額左の如し。

一、金 10 円 石塚三郎

一、金 3 円 塚田二郎

一、金 3 円 高野季八

石塚会長は今迄にない経験をした。総会の日程、出席を促す色々の手立てに翻弄された。

その陰には地元・長岡の役員・塚田二郎氏と高野季八（聯合鑑隊司令長官・山本五十六元師の実弟）の助力があった事が成功へ導びいたのである。ここで石塚会長は慰労会を開き、赤字の負担迄してお互の絆を確認したのであろう。

「6月14日」小沼衛生課長、川上警部より挨拶状来る。田中、中野、竹内、辻沢、長谷川、清水の諸氏より謝状到来せり。

「6月25日」塚田、高野の両氏と会合の上、左の申合せをなせり。

議事録調印の件

施療券の雛形を各自に考案の上、近日中会合決定すること。

「7月4日」議事録・施療券の件に付、塚田幹事、高野評議員の出席を請え事務局にて協議をなし、12時散会。

1) 議事録は出席役員調印の上、本会に備え置く事。

2) 会報は簡略となし、経費節減を謀る事。

3) 施療券の雛形は新潟市役員と協議の上、印刷に付する事。

「7月6日」平岩定之助氏へ標札を送る、と記載してあるが、標札代は会計簿に依り 45 銭、小包荷造料共 17 銭を確認できた。

「7月8日」循石警察部長を長岡警察署に訪問し会務の件に付意見交換せり。

「7月11日」武田署長より衛生課長の傳言なりとて、小生の出港を求めらる。依って来る 15 日参上の趣返答せり。

「7月14日」高田へ電話にて明日出港の件を通知せり。江川氏より倉地氏へ通知せらるる事にせり。

「7月15日」出県。小沼衛生課長に面会、渡辺氏の件に付召換の結果、入会する様の運びを相付け置き答へば、会にては今後成る可く円満なる取計をなされたしとの注意ありたり。

此日竹内副会長も参加せらる。

午後6時、役員なる清水、長谷川両君、並に竹内君、及び余の4名にてイタリヤ軒に晚餐会を催し、左の決議をなせり。

1) 会報は項目を明瞭にし可成簡略にすること。施療券配付並に雛形は長岡役員の提案に同意すること。

2) 議事録署名人は総会出席の役員に於て為すこと。右は調印の会上に保存し置くこと。

さて7月8日に長岡警察署で県警察部長と会談し、7月11日には県衛生課長よりの、「出港要請」の傳言で7月15日出県し、小沼衛生課長に面会している。

この件は、約1年前、無届で東京方面へ赴いた渡辺氏が戻って来たので入会する様に申しつけておいたから、歯科医師会としてなるべく円満に願いますよという主旨のものであった。この時竹内副会長も同行参加している。

高田町の会員の心情いかばかりか。

「8月5日」竹内氏、会長問題に付県衛生課長の同意あるものをもたらし、小生の意見を確めんとて来訪せらる。

議事録は同氏に托し、新潟部の配付をなせり。

「8月15日」新潟を除くの外、各会員全員に議事録概要、並に会則を発送せり。

「8月25日」塚田氏と施療券の件について、協議せり。

「9月15日」各警察署への通牒書を起字し、印刷に付せり。（施療券全部出来に付）

「9月26日」北越新報より、15日回送の印刷原稿紛失に付、再度の起字を申来る。

原稿紛失した北越新報社の無責任、現代であつたら大変な事になる。

「9月27日」再度原稿を印刷所へ送る。

「9月30日」会員名簿、並に通牒書出来に付、此夕各地へ発送せり。

一、金 3 円 20 銭、40ヶ所警察分署へ。

一、金 16 銭、新潟警察所へ。

一、金 28 銭、封袋 41 枚代。

一、金 70 銭、会員名簿 70 枚印刷代。

「10月11日」県下各会員へ、施療券の儀に付通牒を発せり。封書15通、45銭、

「10月24日」清水弥五郎氏より引札の件に照会ありたるを以て、翌25日回答なしおけり。

以下原文空白となっていて今年度の日誌はここで終わっている。

(4) 明治45年度の会員の動静と会務

年次標題記入なきまま始まる。

「45年1月11日」涌井正一氏より、小千谷町295、渡辺浪江治療所に開業の旨届出であり。

「1月20」小千谷町・涌井正一氏へ、会費、並に開免状写し、提出方請求せり。

「2月2日」白井徳蔵氏より加茂町へ停日に出張の趣届出あり。

「2月11日」涌井正一氏より廃業届到来せり。

「2月12日」安田忠吾氏より異動届来る。帰省の爲め暫時休診の趣なり。

「2月23日」渡辺浪江氏より、小千谷出張所閉鎖の趣届出であり。

「2月25日」中野春造氏は、白根町へ出張の趣届出であり。

1月から2月にかけて入会、退会、県外異動、出張所開設等の届出が記載されている。

日誌に付随している会員名簿、会計簿には涌井正一氏は記入されていない。従って会費等入会の手続をしないまま廃業したのであろう。そしてここは渡辺浪江氏の出張所でもあった関係上、2月23日渡辺氏本人から閉鎖の届出があった。そして安田忠吾氏は名簿の上欄に「45年7月16日退会」と記入され県外移動したものと考えられる。

「日本歯科医師会史」に依れば、「4月22日」日本聯合歯科医師会第3回臨時総会が東京歯科医学専門学校で開催された。この時加盟団体は33となり新潟県代表として石塚会長が出席している。

「4月26日」、高田市へ参行。江川、来海、倉地の3君と停車場に会合し、紀伊国屋に一憩し、新潟・竹内氏の来状もありたる事にて、総会々場を高田に決せん事を要求せしも、中央説を主張して承諾せられず、依て新潟へ更に交渉する事となせり。

「4月28日」竹内氏へ電話にて総会の相談をせり。

「4月29日」竹内氏より、総会を長岡市に開く様

致したとの申込あり。

「5月5日」塚田、高野の2氏と総会開催に付協議せり。会場は商業会議所と決せり。

期日は5月25日、旅館は「ますや」に命ぜり。

「5月14日」各会員へ総会の案内状を発送。

「5月17日」商業会議所より、徴兵検査の爲め支障生ぜる旨、申来る。

「5月18日」工業学校へ赴き校長に面会し、会場を借用する事となせり。

「5月19日」各会員へ、往復はがきにて会場変更の通知をなせると同時に、懇親会へ出席の有無を照会せり。

「5月21日」塚田幹事と会務上に付、取調をなせり。

日誌は以下未記入余白となっていて明治45年度で終わっているが、「5月25日」開催と決った第6回県歯科医師会総会について「新潟県歯科医政史」から転載し参考としたい。

第6回新潟県歯科医師会総会、明治45年5月25日、午後2時、長岡市県立工業学校に於て開催、現会員34名中24名出席。

役員決定

会長	石塚三郎	
副会長	竹内清平	
幹事	塚田二郎	清水弥五郎
評議員	長谷川朋一	高野季八
	八百枝康三	佐藤梅次郎
	倉地実雄	

議事

1. 県知事諮問案

- 1) 本会に於て貧困者に対し施療せられたる方法並に其實蹟。
- 2) 貧民の救療に関し官公署又は団体等より之が委託を受けたる時には如何なる程度便宜を与へ得らるるや。

答申案（可決）

- 1) 遺憾ながら充分の効果を収め得ず。
- 2) (イ) 診療券の配布は警察官の指定に一任すること。
- (ロ) 施療券は1人1枚を限るものとす。
- (ハ) 鎮痛、抜歯、ゴム充填は無料とす。
- 其他高価の材料を要するものは規定の半額を徴すること。

2 新潟市衛生友会主催衛生品展覧会へ出品の



図 1

この写真の原板は、石塚三郎旧蔵写真乾板の中にあったものから転写した。

第6回総会の前、遠方から出席した会員の宿泊先「ますや旅館」の庭先で、長岡会員も加わって写したものと思われる。

前列左から、杉本東陽（柏崎）竹内清平（新潟）小長谷利助（佐渡）辻沢俊隆（新潟）石塚三郎（長岡）後列左から、安田忠吾（三條）倉地実雄（高田）永井権吉（長岡）山田利充（長岡）塚田二郎（長岡）1912.5.25

件。（役員会に一任）可決。

- 3 歯科衛生に関する小冊子配布の件。（会員に配布すること）可決
- 4 歯科医制に関する件。（医師にして歯科医業を行はんとするものに歯科試験を行はるるやう運動すること）可決
- 5 日本聯合歯科医会代議員出席の件。（会長を代表者とす）可決
- 6 日本聯合歯科医会代議員旅費支出の件。（役員会に一任）可決

講演及実示

- 1 スチール、フェシングに就て。八百枝正皐。
- 2 レントゲン及びハイフレクインシーに就て。石塚三郎

(5) むすび

我が国の歯科医学史を探る上で、極めて貴重な史料が漸く日の目を見る事ができた。

近代歯科医学草創期の混乱ぶりは、全国津々

浦々に発生したが状況の裏付けとなる資料は今日まで発表されていなかった。

石塚三郎氏は、どんな思いで此の「日誌」を保管し、戦時中、生家に疎開させたのであろうか。感情にとらわれず、只管会員の業権を守る爲に非歯科医を警察や司直の手に委ね、所謂「天長節事件」で苦汁を飲まされ乍ら、平和裏に解決しようと努力した様子が生々しく描写されている。

また総会にて毎回講演会や会員による研究発表を勧め、石塚会長自らも発表している事など、当時の新潟県の歯科界の現状を知る上に於て刊行した次第である。

稿を終るに当り、故石塚三郎氏の御冥福をお祈りし、半世紀もの長い間、保管に心掛けられた生家の方々（現在当主・石塚セツ氏）、日誌解読に終始御指導下さった安田町教育委員会・渡辺文男氏、日本歯科大学新潟歯学部医の博物館・樋口輝雄氏、安田町立吉田東伍記念博物館・成海修一氏、日本歯科医史学会・森山徳長氏、同・広瀬秀氏、そし

て終始御協力下さった安田町並に同教育委員会、
吉田東伍記念博物館友の会々員・諸氏に深甚なる
感謝の誠を捧げるものである。

(おわり)

参考文献

- 1) 厚生省医務局編・医制百年史(全2巻) 1976・9・10
- 2) 日本歯科医師会編・日本歯科医師会史(全3巻) 1992・6・20
- 3) 新潟県歯科医師会編・新潟県歯科医政史 1935・3・10
- 4) 高山歯科医学院石塚三郎編・歯科医学叢談・第3巻6号, 第4巻1号合巻・1899・1・31
- 5) 新潟県歯科医師会編・新潟県歯科医師会史 1976・11・30
- 6) 長岡市歯科医師会編・長岡市歯科医師会史 1982・3・1
- 7) 三條市歯科医師会編・三條市歯科医師会史 2002・7・15
- 8) 歯科学報社編・歯科学報 12巻10号 1907・10
- 9) 歯科学報社編・歯科学報 13巻6号 1908・6
- 10) 歯科学報社編・歯科学報 14巻7号 1909・7
- 11) 歯科学報社編・歯科学報 15巻 1910
- 12) 東京歯科大学同窓会編・東京歯科大学同窓会創立70周年記念誌 1966・12・20
- 13) 新発田市豊栄市北蒲原郡医事衛生史編集委員会編・新発田市豊栄市北蒲原郡医事衛生史 1982・8・31
- 14) (財)日本ナショナルトラスト編・自然と文化(特集)風土を読む. 吉田東伍 1998・8・25
- 15) 吉田東伍記念博物館蔵・歯学資料・石塚三郎旧蔵ガラス乾板写真アルバム(2巻) 2001・12・6
- 16) 日本歯科大学新潟歯学部史料室編・新潟市医学・歯学史散策, 蒲原宏・本間邦則共著・1983・8・1
- 17) 佐藤泰彦編・佐藤家とゆかりの人々, その歴史と系譜 1995・10・29
- 18) 佐藤泰彦・祖父梅次郎の盟友・石塚三郎の事跡 日本歯科医史学会誌 第24巻1号 2001・2・20

著者への連絡先: 佐藤泰彦

〒957-0052 新潟県新発田市大手町
2-5-2
TEL 0254-22-2134